

公益社団法人日本ライフル射撃協会

2023年度第3回理事会議事録

日時：2023年9月30日（土） 13：30～16：43

場所：Japan Sport Olympic Square会議室8及びオンライン会議（Zoom）

出席者（＊テレビ会議による出席）

松丸喜一郎会長、田村恒彦副会長、＊横山幸子副会長、平眞専務理事、大野明敏常務理事、三木容子常務理事、平井宏治常務理事、＊佐橋朋木常務理事、近藤正晃ジェームス常務理事、成山悟史常務理事、田中僚一郎理事、田口亜希理事、松島愛理事、酒寄貴瀬理事、穂苅美奈子理事、栗生由紀理事、寺澤良悦理事、藤枝操理事、＊横沢聡理事、尾崎和郎理事、高橋信吾理事、青木満博理事、仲本渚理事、五十嵐治人理事、＊堀水宏次郎理事

理事：総数27名中 以上出席 21名

監事：総数2名中

岸高清監事、＊永谷喜一郎監事 以上出席2名

議事録署名人：松丸会長、田村副会長、横山副会長、岸高監事、永谷監事

平専務理事が13時32分に理事21名出席で成立するとの宣言をした。

議長：代表理事 松丸喜一郎

事務局が、オンライン会議システムにより、出席者の音声即時に双方向に伝わり、適時的確な意見表明が互いにできる状態となっていることを確認して議案の審議に入った。

1 会長あいさつ

中国杭州のアジア競技大会から帰国した。東京と同じ規模の都市であり、中国の人口順位で12位。アリババの本社があり、デジタル化が進んでいる。役員村は高級ホテル並み。次期開催地である日本は近郊の旅館やビジネスホテルであるので役員選手がその違いに愕然とするのではと心配している。役員等は旧知の友のように再会を喜んでいる。スポーツを通して友情を高め、国、宗教、人種の違いを乗り越え相互理解を深め世界平和に寄与するというオリンピックイズムは役員でも実現していると実感した。国体は全国から役員が集まる。皆で力を合わせていきたい。

<審議事項>

2 会長提案

2.1 JRSF 将来構想進捗状況の公表内容について

松丸会長が画面共有資料「2.1 JRSF 将来構想進捗状況の公表内容について」に基づいて説明し、議長が理事会に諮り、案の通り理事会によって承認された。

補足説明

四半期ごとに4回に分けてHPホームページに公表する。

2.2 愛知・名古屋アジア競技大会準備運営室メンバーについて

松丸会長が資料「2.2 愛知・名古屋アジア競技大会準備運営室メンバーについて」に基づいて説明し、修正を反映した内容で理事会によって承認された。

修正

藤井彌をアドバイザーから削除する。

補足説明

東京大会で活躍したメンバーを活用してほしい。

質疑応答

出入国は名古屋空港だけで足りるのか？（田村副会長）

→中部国際空港は直行便の便数が少ないため、成田や羽田にくる可能性がある。

3 総務委員会

3.1 【追加】ふるさと納税簡単申込システム構築経費について

門間広報部会長と谷川モダナイズ部会長が資料「3.1 【追加】ふるさと納税簡単申込システム構築経費について」に基づいて説明し、修正を反映した内容で理事会によって承認された。

補足説明

先の議題で説明した通り標的事業の収入は激減した。会費収入だけが見込める財源となった。このままでは財政は破綻する。ふるさと納税収入の増収を理事全員で進めていく。（松丸会長）

修正

松丸会長と松島理事で動画を作成し、紹介ページへ挿入する。

質疑応答

紹介ページへの動画挿入は行わないのか。（松丸会長）

→間に合わないので見送った。（門間部会長）

→動画は私がすぐに撮影できる。（松島理事）

→動画を入れる事にする。（松丸会長）

3.2 【差替】紙標的の在庫圧縮及び値上げの検討

平専務理事が資料「3.2 【差替】紙標的の在庫圧縮及び値上げの検討」に基づいて説明し、議長が理事会に諮り、案の通り理事会によって承認された。

4 推薦委員会

4.1 空気拳銃の再所持等について

大野推薦委員長が資料「4.1 空気拳銃の再所持等について」に基づいて説明し、次の理事会でブレッテンを提示して審議することが確認された。

補足説明

療養のため2年間APを使えない方がいた。いわば眠り銃なので、500人枠を有効に使うため提案した。復帰の見込みが見つからない方を対象とする。

5 国体委員会

5.1 国体委員の変更

平井国体委員長が資料「5.1 国体委員の変更」に基づいて説明し、議長が理事会に諮り、案の通り理事会によって承認された。

5.2 2023 鹿児島特別国体中央競技役員変更

平井国体委員長が資料「5.2 2023 鹿児島特別国体中央競技役員変更」に基づいて説明し、議長が理事会に諮り、案の通り理事会によって承認された。

5.3 2024 佐賀国スポリハーサル大会中央競技役員変更

平井国体委員長が資料「5.3 2024 佐賀国スポリハーサル大会中央競技役員変更」に基づいて説明し、議長が理事会に諮り、案の通り理事会によって承認された。

6 選手強化委員会

6.1 第17期エリートアカデミー・オーディション結果について

佐橋選手強化委員長が資料「6.1 第17期エリートアカデミー・オーディション結果について」に基づいて説明し、訂正を反映した内容で理事会によって承認された。

訂正

「2022年」を「2023年」に訂正する。

補足説明

応募が1名だけであったが、評価は現エリートアカデミー所属高校1年生の阿部暁梨沙さんと同じレベルだった。

質疑応答

エリートアカデミー所属高校1年生の阿部暁梨沙さんと同じレベルという事だが、具体的にはどういう事なのか。（松島理事）

→体力測定、学力などの評価が同レベルである。射撃に関しては、ウーヨンコーチがサイティング能力の高さを評価している。（佐橋委員長）

応募1名というのは少ない。アーチェリーのように各地域に声かけをすること。（松丸会長）

→承知した。（佐橋委員長）

6.2 2023 年度 国際大会・海外派遣選手選考要綱

佐橋選手強化委員長が資料「6.2 2023 年度 国際大会・海外派遣選手選考要綱」に基づいて説明し、議長が理事会に諮り、修正を反映した案の通り理事会によって承認された。

修正

東アジアユース栃木大会の選考会実施日について「①10月28日~29日選考会にて派遣選手を決定する。」→「①11月11日~12日選考会にて派遣選手を決定する。」

補足説明

ジャカルタ大会が前倒しになったので、選考対象の試合を変更した。

QP獲得者は各種目枠に余裕がある場合、出場種目以外の種目での出場も認める場合がある。オリンピックでの複数種目を目指す選手を主眼においた。

質疑応答

東アジアユースの選考会がSAGA2024国スポライフル射撃競技リハーサル大会と重なっている。再考すべきではないか。（田村副会長）

→11月の中で日程を再設定する。（佐橋委員長）

7 競技運営委員会

7.1 【差替】公認審判員

三木競技運営委員長が資料「7.1 【差替】公認審判員」に基づいて説明し、議長が理事会に諮り、案の通り理事会によって承認された。

7.2 【追加】日本記録

栗生記録部会長が資料「7.2 【追加】日本記録」に基づいて説明し、議長が理事会に諮り、案の通り理事会によって承認された。

7.3 射場公認(大分県、岩手県)

尾崎認定部会長が資料「7.3 射場公認(大分県、岩手県)」に基づいて説明し、議長が理事会に諮り、案の通り理事会によって承認された。

7.4 ビームライフル・ビームピストルおよびビーム標的の検定基準への公認料記載提案

三木競技運営委員長が資料「7.4 ビームライフル・ビームピストルおよびビーム標的の検定基準への公認料記載提案」に基づいて説明し、議長が理事会に諮り、案の通り理事会によって承認された。

7.5 競技規則の更新について

三木競技運営委員長が口頭にて説明し、議長が理事会に諮り、案の通り理事会によって承認された。

補足説明

11月1日に掲出、適用を開始する。

12月にルール講習会を行う。

7.6 競技記録公認規程の改正

三木競技運営委員長が資料「7.6 競技記録公認規程の改正」に基づいて説明し、修正を反映した内容で理事会によって承認された。

修正

第4条1項をわかりやすく書き直す。

G3の試合要項が未提出の場合はG4とすることを第8条に明記する。

第8条に定める試合要項の提出期限は、3か月前までとする。

補足説明

ヨーロッパでは、ショットガンの試合が鉛害を理由に試合を開催出来なくなっている。共生など、良い側面を発信していかなければならない。(松丸会長)

質疑応答

本資料のチーム戦に関する記述はどういう意味なのか。(松島理事)

→近年(2016年以降)、ISSFのルールでチーム戦として個人戦とは別に撃つ種目が作られたため(国内でも)追加されていた。しかし、廃止されて元にもどった。チームの合計点数は、個人本選点数の合計にする。(三木委員長)

今後男女混合にする場合、種目名はどうするのか。(松島理事)

→まだISSFも含めて決まっていない。(三木委員長)

屋内は備考に書くのか。(岸高監事)

→その通り。(三木委員長)

G3が未提出の場合はG4とすることを明記すること。(松丸会長)

→承知した。(三木委員長)

第8条に定める試合要項の提出期限は、6か月前だと早すぎるので原則3か月前までに出す事。(松丸会長)

→承知した。(三木委員長)

7.7 競技会補助に関する今後の考え方

平専務理事が資料「7.7 競技会補助に関する今後の考え方」に基づいて説明し、議長が理事会に諮り、案の通り理事会によって承認された。

補足説明

収支報告提出を徹底する。

資料の基準を最新の規程にあわせて改訂していく。

7.8 【画面共有】TD名簿への追加

三木競技運営委員長が資料「7.8 【追加】TD名簿への追加」に基づいて説明し、議長が理事会に諮り、案の通り理事会によって承認された。

8 普及・生涯スポーツ委員会

審議事項無し

9 マーケティング委員会

9.1 日本eshooting協会の新設提案

近藤マーケティング委員長が資料「9.1 日本eshooting協会の新設提案」に基づいて説明し、議長が理事会に諮り、案の通り理事会として総会へ加盟団体として推薦することを承認した。

質疑応答

IFはどうしているのか。

→臨時委員会としてEsports委員会を入れている。

補足説明

正式な加盟団体承認は来年の社員総会で諮ることになるが、それまでの間の活動は、「理事会で加盟団体として推薦を承認された団体」として活動することもよろしいかと議長が諮り、承認された。

第3条に本会の傘下であることを明記した。協会のマーケティング委員会のもとで日本eshooting協会が活動する事が前提であるため。

第4条でソフトウェアの認定などで収入を立てる事を示した。

第6条にある選手会員とは、我々のゲームに登録した時に囲い込むための名目である。

IOCは委員会を設置した。ビジネスとして確立し、ファンを増やすには専門家に機動的に動いてもらう必要がある。専門家を擁した機動的な支出、営業活動による収入、収入のプールが必要であるため、加盟団体として独立させた。

警察庁、自衛隊を加盟団体として扱うのをやめる。警察庁は協会の監督官庁であり協会の加盟団体では利益相反となる。今後は先方の意向を確認の上、協力団体としたいがよろしいかと諮り、承認された。

岸高監事から自衛隊の正会員はどのようにするのかとの質問に対し、本部選出の方法があると説明された。（松丸会長）

昔は、加盟団体からの試合エントリーが出来た。今は都道府県ライフル協会からエントリーする必要があるので、警察庁及び自衛隊を加盟団体として扱う必要はない。（平井常務理事）

10 コンプライアンス委員会

審議事項無し

11 アスリート委員会

審議事項無し

<報告事項>

12 会長報告

12.1 ASC総会役員委員改選結果

松丸会長が資料「12.1 ASC総会役員委員改選結果」に基づいて説明した。

補足説明

今回落選した栗生理事の知名度をあげるため、12月のISSFワークショップに松丸会長と共に参加する。

12.2 射撃発展途上国支援

松丸会長が資料「12.2 射撃発展途上国支援」に基づいて説明した。

12.3 ふるさと納税補助金の加盟団体別還付金額について使途のヒアリングの実施

松丸会長が資料「12.3 ふるさと納税補助金の加盟団体別還付金額について使途のヒアリングの実施」に基づいて説明した。

補足説明

加盟団体で支援金をどのように活用しているか、ヒアリングを行う。支援金交付時に通知した使われ方をしていない場合は交付率を検討する。（松丸会長）

12.4 その他（eSportの日における戦略的位置付け）

松丸会長が口頭及び動画で、eSportの日における戦略的位置付けについて説明した。

現在、本会の会員年齢が高まり、人数が減ってきている。

リアル（実際の銃による射撃競技）だけを追いかけても会員数の拡大は困難。

今回OESで選んだフォートナイトは、プレイヤー数が世界で5億人おり、日本では1000万人（アクティブユーザー100万人）である。参入の目的は2つ。巨大なeSportのプレイヤーの若者にゲームであってもシューティングに興味をもってもらい、きっかけを作ること。全日本選手権を企画し、大会参加者は協会に登録してもらい、ことも検討する。

二つ目は大会を運営してマーケティング収入を創出すること。

漠然と不安を抱く人々がいるが、リアル競技がゲームに置き換わる事はない。ゲームのプレイヤーはリアル射撃と同じゲームの内容では現在楽しんでいるゲームと異なり興味を起さない。従ってリアル射撃競技にゲーム内容を近づけて興味が無くなったなら戦略目標を達成できず。

公開タイミングは検討していく。

質疑応答

設計製作費用はどれくらいかかったのか。

通常プロに頼むと千万単位でかかるが、有能な高校生クリエイターを活用し、百数十万単位で実現した。（近藤委員長）

費用はどこから出たのか。

オリンピック向けのものは、IFから支出された。国内の大会を組む時には、本会から出す。

（近藤委員長）

eSportsではドーピングコントロールがあるのか。

選手のドーピングではなく、機材やネットワークの不正防止が必要。（近藤委員長）

大会運営役員として、何人くらいいるのか。

OESにおいては、ルール運営管理で8名必要だった。サイバー環境の検証はゲーム会社が担当する。エンタメ性の高い会場運営は、専門家が必要。（近藤委員長）

- ・ ふるさと納税担当推進理事の指名

松丸会長より口頭にて、次の理事が「ふるさと納税担当推進理事」として指名された。

松島理事

高橋理事

13 総務委員会

13.1 アスリート委員会予算について

松丸会長より口頭にて、アスリート委員長による NTC合宿参加費用として年 20 万円を計上することにした、との報告があった。

14 コンプライアンス委員会

報告事項なし

15 推薦委員会報告

15.1 審査結果

15.2 AP委託保管に関する法改正の進捗

大野推薦委員長より警察庁と空気拳銃の委託保管について協議している、との報告があった。

16 国体委員会報告

16.1 国民スポーツ大会開催内定地の正規視察

平井国体委員長が、資料「16.1 国民スポーツ大会開催内定地の正規視察」の事前提出をもって報告とした。質問などはなかった。

17 選手強化委員会報告

17.1 国際大会結果報告

訂正

アジア選手権のうち、自費対象者の小西、千葉、園田は参加しない。

質疑応答

自費参加とは、どれくらいかかるのか。（松島理事）

チャンウォン（韓国）のアジア選手権におけるおおまかな費用は、次の通り。（佐橋委員長）

エントリー 150 USD

旅費 12 万円

1泊 100 USD

銃器 30 USD、8800 円

バクーまでの予算進捗状況を強化本部で確認したい。（松丸会長）

承知した。（佐橋委員長）

17.2 その他

ジュニア以下の育成に関する質疑応答

夏の合宿をジュニアがやっていないと聞いたが、NTCでやることで年2回やってきた。なぜやらないのか。（大野常務理事）

昨年からFTEMとして、パスウェイを作っている。toto予算が5月に決まったので、スター

トが遅くなった。

T2 ユースとジュニアは、FTEMが遅れているので実施できていない。2月ごろに開催予定。（佐橋委員長）

18 競技運営委員会報告

18.1 【差替】電子標的の再公認について

三木競技運営委員長が、資料「18.1 【差替】電子標的の再公認について」の事前提出をもって報告とした。質問などはなかった。

18.2 全日本BR/BP(石巻)大会の件について

・松丸会長が口頭にて説明した。

将来構想で共生大会を掲げているが、全日本BR/BP(石巻)大会は共生大会ではない形で開催され、総合表彰をしていなかった。お詫び申し上げる。（松丸会長）

お詫び申し上げる。（三木委員長）

19 普及・生涯スポーツ委員会

19.1 スポーツ射撃体験会 実施状況

（動画）体験会

成山普及・生涯スポーツ委員長が、体験会の動画を画面共有し、報告とした。
質問などはなかった。

20 マーケティング委員会報告

報告事項なし

21 アスリート委員会

21.1 アスリート委員会活動状況について

堀水アスリート委員長が、資料「21.1 アスリート委員会活動状況について」の事前提出をもって報告とした。質問などはなかった。

22 会務報告

22.1 訃報

藤井彌事務局長より、口頭にて報告があった。

愛知県ライフル射撃協会 理事長 大谷肇様

秋田県ライフル射撃協会 会長 近藤貞夫様

ソウルオリンピック、バルセロナオリンピック代表 稲垣守様

埼玉県ライフル射撃協会 深谷雅子様(日本ライフル射撃協会参与)

以上各業務執行理事より職務執行の状況報告があった。

1 6時43分議長が閉会を宣言した。

上記議事の経過の要領及びその結果を明確にするため、出席した代表理事および監事が記名押印する。

2023年9月30日

議事録署名人

公益社団法人日本ライフル射撃協会

議長・代表理事	松丸喜一郎	印
---------	-------	---

代表理事	田村恒彦	印
------	------	---

代表理事	横山幸子	印
------	------	---

監事	岸高 清	印
----	------	---

監事	永谷喜一郎	印
----	-------	---